

# 待望の天草五橋開通

九月二十四日、この日、地元三角町で三笠宮、同妃西殿下をお迎えして、天草五橋の開通式が行なわれた。

天草島と本土を結ぶ「海のかけ橋」の構想が、先覚者の間に芽生えてから約三〇年、ここに至る道は遠くわけわかったが、この日、天草二〇万島民の夢と願いと努力は、みごとに結実し、天草開発の新しい一頁が開かれたのである。

ところで、道路公団が、五橋を建設する当初の計画では、一日の通行量は五五〇台、最高八、〇〇〇台との予想が、二



十五日の開通初日には、一万台を突破、平日でも約七、〇〇〇台、最低の日でも四、八〇〇台と、予想交通量をはるかに上廻る、嬉しい誤算。

特に国道二六六号線のうち大浦・木渡間の未改良区間については、五橋開通後約六倍の自動車交通量となっているので、これが早期解決をせまられている。そこで、この未改良区の改良については昭和四二年度に改良工事（工費約一〇億円）を終り、昭和四三年度に舗装を完了する計画で建設省と経済企画庁に要望している。

特に幅員が狭くて人家の連たんしている大島子、下津江及び中之塩屋の三地区については、施越工事として本年度約一億三、〇〇〇万円の工事費で既に着手しているもので、明年四月までには改良工事を終り、交通マヒだけは起きぬよう努力している。

また、国道二六六号線の本渡・牛深間並びに県道本渡富岡線、峯北河浦線、下浦竜ヶ岳松島線及び下田本渡線については特改工事として引き続き整備していく予定である。

以上のように五橋開通は、観光天草のシンボルとはなったが、農林水産物の流通をすみやかにするなど天草開発の促進をはかるためには、今

後さらに島内道路の整備を行ない、遅れた天草の産業開発と生活環境の改善をは

## 臨海工業地帯整理すすむ

八代は、昔から農林産物、海産物等の集散、海外交易の要衝として栄えてきたが、明治以降日本セメント、興国人絹パルプ、三葉オーシャン、十条製紙等の大企業が相次いで進出し、今や南九州随一の工業都市として発展してきた。

このような工業の発展とあいまって物資の流動も活況となり、八代港の重要性は飛躍的に増大してきたが、特に戦後の経済の急激な発展に伴う海上輸送の増大に対処するため、港湾の整備をはかることとし、昭和三年から大型岸壁を有する八代外港の建設に着手し、現在までに一万ト岸壁一ベース、五千ト岸壁一ベースの完成をみており、昭和四四年度までに一万五千ト岸壁一ベースの建設を計画している。

港湾の整備と共に同港の出入船数、貿易の実績も毎年順調に伸びて、同港の貿易港指定が各方面から要望され、四一年四月一日に貿易港の指定を受けた。八代港の開港は、本県では、三角、水俣につぐもので、これによって、従来三角港等の貿易港を経由していた外航船は直接八代港に入港できるようになり、時間や経費の無駄がはぶけ、地元企業をはじめ関係者によるこぼれ、今後八代港の飛躍的

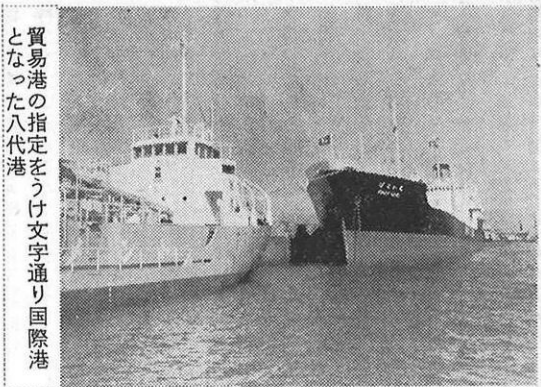
かって、住民福祉の向上に努める必要がある。

な発展が期待されるようになった。またこれをきっかけとして、植物防疫所、検疫所や輸出品検査所など貿易関係機関の誘致についても引き続き努力したいと考えている。

このように八代港は、港湾施設の整備も進み、開港指定も受けるなど港湾の条件も次第に整い、道路、鉄道等の運輸施設も優れ、労働力、資源にも恵まれていることから、ここに本格的な臨海工業地帯の造成を計画し、三九年度に指定された「不知火、有明、大牟田地区新産業都市」の拠点として重点的に整備を進めることとしている。

この計画に基づいて、県では昭和二二年以来農林省が作ってきた八代港干拓地約二五五畝を四〇年一〇月農林省から購入し、工業用地を造成することにした。これには港湾工事に伴う浚渫土等が必要であるが、地元漁業協同組合に対する漁業補償も四一年一〇月に解決したので、埋立工事も先頃から開始された。

県ではこのほろ大規模な工業用地に基幹となるような大規模な工場の誘致を考え、これによって本県の産業の振興をはかる考えであるが、すでに石油業者による石油配分基地の建設が決定し、四一年一二



月中旬には工事に着手することになっている。この石油配分基地は、石油専用の荷役施設や貯蔵タンクを備えるもので、海上輸送によるコスト引下げをはかり、県内はもちろん鹿児島の一部にまで石油を供給する予定である。

また、八代に立地する企業に対する工業用水についても農林省の手によって進められている八代平野土地改良事業の新遙拝堰から共同取水することとして、すでに四〇年度から堰に対する県の負担金も支払っている。

このように、八代臨海工業地帯としての整備も港湾、工業用地、工業用水とそれぞれ順調に進んでおり、新しい企業の進出をまっぴかりである。

## 道路網の整備すすむ

増大する自動車交通需要を処理すべき本県の国道及び県道の整備は加速度的に進捗しつつあるが、その概況は次のとおりである。

### 一、国直轄事業

1. 国道三号線  
全線にわたり一応改良を終り、舗装も完了したが、引続いて次のとおり施行される予定である。  
新熊本バイパス  
熊本市京町附近の交通を緩和するため、北部村四方寄から熊本市浄行寺に至るバイパスは改良を完了し、

舗装も来年度は完了する予定である。

植木バイパス

本年度から本格的な調査と、一部の用地買収に着手される。

### 2. 国道五七号線

坊中バイパス  
本年八月末に全線舗装工事が完了した。  
立野バイパス  
本年一〇月末に改良工事が完了し、来年度舗装も完了する予定である。

### 大津バイパス

本年度から本格的な調査が行なわれ一部用地買収が行なわれる。

### 坂梨バイパス

本年度一部の用地買収が行なわれ、来年度改良工事が完了する予定である。

### 3. 国道熊本延岡線

矢部町浜町から宮崎県との県境に至る間については、国直轄施行がきまり本年度から調査の段階に入っている。

### 二、県施行事業

本年度の国庫補助を伴う事業は次のとおりで、

道路改良事業 一、八六四、六〇〇千円  
橋梁整備事業 三六六、四〇〇千円  
舗装新設事業 一、〇七三、五〇〇千円  
交通安全施設事業 七六、六〇〇千円  
計 三、三八一、一〇〇千円

これを昭和四〇年度の実績二六億円と比べると一三〇%と大幅な伸びを示している。さらに単独県費事業及び市町村に対する補助事業を加えると四八億円の巨額にのぼるが、本年度の主な事業は次のとおりである。

### 1. 国道熊本宮崎線

球磨村一勝地・渡間の改良及び人吉・多良木間の舗装を完了する。

### 2. 国道牛深宇土線

天草五橋完成に伴う本線の整備については、大浦・本渡間の未改良

区間は来年度に完成する計画であり本渡・牛深間についても隘路箇所から改良及び突角剪除、待避所設置等の特殊改良工事を施行する計画である。

### 3. 国道熊本佐賀線

八嘉台地バイパスの改良を完成し四二年度からは建設省の指定区間とし、国直轄管理に移行する予定である。

### 4. 国道熊本延岡線

松橋・中央村堅志田間の未改良区間の改良を完了し、堅志田・砥用町間の未改良区間は四二年度に着手の予定である。

### 5. 城北開発横断道路

阿蘇スカイライン建設に関連する本道路は、事業費の倍額により各路線とも大幅に整備はすすめられている。

### 6. 交通安全施設整備

激増する交通事故対策として、交通安全施設を四一年度から三カ年計画で大幅に整備する。

### 三、市町村道国庫補助事業

市町村道の国庫補助については、従来主として特殊立法関係に対象が絞られていたが、国県道の整備がすすむにつれて、これに連絡する市町村道のおくれが目立ちはじめたため、建設省は本年度から採択基準の拡大に踏み切り国県道と一体となってその機能を発揮す